

「主観」を表す文末名詞文の日韓対照研究*

—小説と新聞の用例に基づいて—

金 廷 珉**

(e-mail : kjm-0630@hanmail.net)

<目次>

- | | |
|------------|---------------|
| 1. はじめに | 3.1. 日韓の小説の場合 |
| 2. 考察の対象 | 3.2. 日韓の新聞の場合 |
| 3. 調査方法と結果 | 4. 分析と考察 |
| | 5. おわりに |

キーワード：文末名詞文(Noun-concluding sentence), 主観(Subjective), 小説(Novel), 新聞(Newspaper), 対照研究(Contrastive Study)

1. はじめに

日本語には(1)～(3)のように典型的な名詞述語文とは別に「文末名詞文」¹⁾が存在する。文末名詞文とは「連体部を必須とし、コピュラを伴って文末に位置し、主語と同値または包摂関係にない名詞を持つ文」(新屋1989、2014)²⁾のことを指す。

- (1) 川田君はすなおで朗らかな性格です。
- (2) 梓川は、この前の春の時とは少し異なった感じだった。

* 本研究は「韓国日本語文化学会2019年度秋季国際学術大会」及び「韓国日本文化学会第58回国際学術大会」において発表した内容に大幅修正・加筆を施したものである。

** 亜細亜大学、准教授、日韓対照言語学

1) 角田(1996)は「体言締め文」、角田(2011)、Tsunoda(2020)では「人魚構文」「Mermaid Construction」と呼んでいるが、本研究では日韓対照を行う上で中立的な用語と考えられる「文末名詞文」(新屋1989、2014)とする。

2) これ以降、初出の新屋(1989)に加筆したうえで書籍に収められた新屋(2014)を引用することにする。

(3) 平岡はあまりこの返事の冷淡なのに驚いた様子であった。

(新屋2014:86、下線原文ママ)

文末名詞文は連体部を必須とするため、仮に(1)～(3)より連体節を取り除くと非文になってしまう。

(1') * 川田君は性格です。

(2') * 梓川は感じだった。

(3') * 平岡は様子であった。 (同上)

日本語の文末名詞文に関しては新屋を始めとする多くの研究の蓄積があるが(角田1996、2011、野田2006、井島2010、川島2016、丹羽2017など)、文末名詞文の使用実態を調べた研究は澤田(2014)のほかにはあまり見られない。

一方、日本語と多くの類似性を有する韓国語にも同様の構文が存在している(例(4)と(5))。しかし、韓国語の文末名詞文に関する先行研究は日本語ほど生産的ではなく、정희정(2000)、남길임(2004)などにおいて名詞述語文の下位タイプとして分析がなされている。

(4) 나는 그 카페에 꼭 찾아가 볼 생각이다.

(5) 혁은 옷을 때와는 달리 다부지게 따질 기세이다. (남길임 2004:70)

また、日韓対照言語学の観点から論じた研究は特定の文末名詞を取り上げたものが多く(金2014、文2014)、日本語教育分野における文末名詞文の存在感も薄い(澤田2014:57)。

金・秋葉(2019)では日韓の文末名詞に生起する名詞のタイプを角田(1996)に倣い「実質名詞」と「形式名詞」に分けて、その出現頻度を日韓それぞれの小説データに基づいて比較を行った。しかし、日韓それぞれの言語における「実質名詞」と「形式名詞」の境界(文法化の度合い)が判然としないことに加え、分析対象とした用例数が均等ではないといった問題点があった。

そこで本研究では、金・秋葉(2019)での調査方法を全面的に見直し、分析と考察を補完する形で論を進める。具体的には日韓の小説および新聞より用例を収集し、ジャンル

と言語間における類似点と相違点を明らかにすることを目的とする。さらに、その結果を踏まえて韓国日本人語学習者を対象とした日本語教育分野への応用可能性を探ってみたい。

本稿の構成は次の通りである。次節では先行研究について簡単に触れた上で本研究の考察対象を述べる。3節では調査方法を説明し、結果を提示する。4節では3節での結果を踏まえて分析と考察を行う。最後に5節では結論と今後の課題を提示する。

2. 考察の対象

ここでは分析の土台となる新屋(2014)について簡単に触れ、本研究における考察の対象を述べる。

新屋は文末名詞文の意味を「A.パラダイグマティックなもの」「B.属性」「C.感覚的な状態の把握」「D.主観(感覚/感情・心理/意思/認識・意見)」「E.状況の詳述・解説」「F.時間・空間的な位置関係」「G.事象の伝達」に関する名詞、の7つに分類している。以下に新屋による意味分類と該当名詞を表にまとめて提示する。

<表1> 新屋(2014)における文末名詞文の意味分類と該当名詞

意味分類	名詞例
A. パラダイグマティックなもの	種類、類、たぐい、タイプ、部類、階層、パターン
B. 属性	傾向、風潮、習わし、習慣、性質、性格、気質、性分、たち、役目、役割、責任、立場、体質、顔立ち、構成、構造、仕組み、形、趣、体裁
C. 感覚的な状態の把握	様子、模様、気配、状態、状況、有様、格好、雰囲気
D. 主観 (感覚/感情・心理/意思/認識・意見)	感じ、気持ち、思い、気分、心境、意向、気、魂胆、料簡、覚悟、考え、決心、方針、予定、計画、構え、狙い、つもり、意見、考え、印象、考え方、認識、見方
E. 状況の詳述・解説	塩梅、具合、次第、道理、話、わけ
F. 時間・空間的な位置関係	ところ、近辺、近く、そば、寸前、最中、頃、直前、直後
G. 事象の伝達	こと、話、噂、評判、由

このように文末名詞文の意味範囲は多岐に渡るが、本研究では分析対象をとりわけ「主観(感覚/感情・心理/意思/認識・意見)」語群に限定して日韓の対比を行うことにする。その理由は2つある。金・秋葉(2019)の調査結果では、日韓両言語において

「主観」に関する名詞(例:「気分/기분」「感じ/느낌」など)の出現頻度が高く表れたこと、1節で述べたように「実質名詞」と「形式名詞」の区分による日韓対比では、両者の境界自体が日本語と韓国語で異なる³⁾ため、分析対象のみならず、それに伴う結果にも影響する可能性があるからである。

したがって、日韓対照分析を行う上で議論の煩雑さを避けるために、(6)～(9)に示すような「主観」を表す文末名詞文(以下、「主観」類とする)に対象を絞って日韓の対比を行うことにする。

- (6) 心も体も疲れはてた感じである。
- (7) 僕だってこのままでは兄さんに対してすまない気持です。
- (8) あれ！本当にやる気だよ。
- (9) じゃ、僕等二人は世間のおきてに叶う様な夫婦関係は結べないという意見だね。

(新屋2014:89、下線原文ママ)

3. 調査方法と結果

3.1. 日韓の小説の場合

日本原作の小説とその韓国語訳版、韓国原作の作品とその日本語訳版を、それぞれ4冊ずつ⁴⁾選び、冒頭から2000文目までを対象⁵⁾に、次の3点について調べた。

- (i) 全体の文末名詞文および「主観」類の頻度
- (ii) 「主観」類の日韓対応関係
- (iii) 「主観」類に生じた名詞の種類と頻度

まず、上記の(i)全体の文末名詞文および「主観」類の頻度を調べた結果を<表2>に示す。

3) 名詞の文法化について、韓国語は안주호(1997)、日本語は三宅(2005)を参照されたい。

4) 資料の詳細は稿末に記す。

5) 総文数を日韓ともに8000文に統一したことにより、金・秋葉(2019)での問題点の改善を図った。

<表2> 小説における文末名詞文の頻度 (%)

言語	出現数	総文数	「主観」類の出現数	合計
日	98 (1.23)	8,000	26 (26.53)	98 (100.00)
韓	151 (1.89)	(100.00)	42 (27.81)	151 (100.00)

<表2>より、総文数8000文中、文末名詞文の割合は日本語が98件(1.23%)、韓国語が151件(1.89%)と、日本語より韓国語のほうがやや上回っていることが分かる。このうち、「主観」類の出現頻度も日本語が26件(26.53%)、韓国語が42件(27.81%)のようにわずかな差ではあるが、韓国語のほうが高い。

次に、(ii)「主観」類の日韓対応関係について調べた結果を<表3>に提示する。

<表3> 小説における文末名詞文の対応関係 (%)

小説	対応	非対応	合計
日→韓	23 (88.46)	3 (11.54)	26 (100.00)
韓→日	19 (45.24)	23 (54.76)	42 (100.00)

<表3>の「対応」とは、(10)(11)のように原作小説と対訳版の両方において、文末名詞文が使用されている場合を、「非対応」とは(12)(13)のように、原作では文末名詞文が使用されているが、対訳版では動詞文など文末名詞文以外の表現が用いられている場合を指す。

(10) とてもとてもとても嫌な気分だ。

「입으로 뱀어 나올 것만 같은, 질척하고도 끔찍한 기분이었다。」

(『飲めば都』)

(11) 목이 말라 어제 사다 놓은 맥주를 마실 생각이었다.

「喉が渴いて、昨日買っておいたビールを飲むつもりだった。」

(『개인의 취향』)

(12) 天にも昇る気持ちだった。

「하늘이라도 날 듯이 기뻐다.」

(『마돈나』)

(13) 일을 하는 것도 아니고 일을 배우기 위한 강의를 듣는 데도 시터를 따로 구해야 한다는 사실에 벌써 지치는 기분이었다.

「まだ仕事になってもいないのに、仕事につくための授業を受けるにもベビーシッターが必要だという事実にもう疲れてしまった。」

(『82년생 김지영』)

<表3>を見ると、日本語の小説とその韓国語訳版(日→韓)では両言語間で対応す

る場合(23件、88.46%)が非対応の場合(3件、11.54%)に比べて顕著に高い。これに対して、韓国語の小説と日本語訳版(韓→日)の方では、両者が対応する場合(19件、45.24%)よりも、非対応のほう(23件、54.76%)がやや高く表れている。

最後に、(iii)「主観」類に生じた名詞の種類と頻度の調査結果は<表4>の通りである。

<表4> 小説における「主観」類の名詞の種類と頻度

小 説					
日	数	%	韓	数	%
気	5	<u>19.23</u>	기분	21	<u>50.00</u>
感じ	5	<u>19.23</u>	느낌	10	<u>23.81</u>
気持ち	4	<u>15.38</u>	생각	5	<u>11.90</u>
つもり	4	<u>15.38</u>	계획	1	2.38
気分	2	7.69	마음	1	2.38
心境	2	7.69	속셈	1	2.38
構え	1	3.85	인상	1	2.38
考え	1	3.85	전망	1	2.38
算段	1	3.85	주의	1	2.38
予感	1	3.85			
合計	26	100.00	合計	42	100.00

<表4>を見ると、日本語では「気」から「予感」まで計10種類の名詞が、韓国語では「기분」から「주의」まで計9種類の名詞が使用されている。生起頻度の高い順に見てみると、日本語は「気」「感じ」(それぞれ5件、19.23%)、「気持ち」「つもり」(それぞれ4件、15.38%)という名詞が、上位1~2位を占めている。韓国語は「기분」「느낌」「생각」の3語に集中しており、とりわけ「기분」の使用頻度(21件、50.00%)が顕著に高い。以上、日韓の小説の調査結果を見てきた。

3.2. 日韓の新聞の場合

日韓の新聞(日刊紙)を対象⁶⁾に以下の方法で用例を収集した。

- ・調査対象:日本語は「朝日新聞」のデータベース(聞蔵Ⅱビジュアル)、韓国語は「朝鮮日報」(www.chosun.com)のウェブサイト

6) 小説と違って新聞の場合は日韓対訳データの入手が困難な状況である。朝鮮日報、東亜日報など韓国の新聞社は英語以外にも日本語版の配信もしているが、日本の新聞社では今のところ韓国語版の記事は提供していない。そのため、日韓両国においてトピックや内容がなるべく等価になるように「輸出規制」をキーワードに記事を収集した。

- ・ 検索方法：2019年7月1日～8月31日までの紙面記事のみを選択
「輸出規制／수출규제」をキーワードとして検索

上記の期間を指定した理由は対韓輸出規制、ジージア協定破棄という、日韓関係の悪化につながる共通の話題の出来事があった時期だからである。以上の方法により、「朝日新聞」141件、「朝鮮日報」211件の記事に基づいて、日韓両言語の文末名詞文の用例を集めた。全体の頻度を調べた後、小説と同様に「主観」類に絞った。その結果を<表5>に提示する。

<表5> 新聞における文末名詞文の頻度(%)

言語	出現数	総文数	「主観」類の出現数	合計
日	105 (3.69)	2841 (100.00)	65 (61.90)	105(100.00)
韓	159 (3.79)	4197 (100.00)	72 (45.28)	159(100.00)

<表5>から分かるように日本語は2841文中、105件(3.69%)、韓国語は4197文中、159件(3.79%)の文末名詞文が生起しており、全体に占める割合は日韓両言語間においてほとんど差がない。しかし、「主観」類の頻度は、韓国語(72件、45.28%)よりも日本語のほう(65件、61.90%)で高く表れた。

次に、新聞に出現した「主観」類に生起した名詞とその頻度を<表6>に示す。

<表6> 新聞における「主観」類の名詞の種類と頻度

新聞					
日	数	%	韓	数	%
予定	22	33.85	예정	26	36.11
見通し	12	18.46	계획	19	26.39
構え	10	15.38	전망	13	18.06
方針	10	15.38	방침	8	11.11
考え	9	13.85	계산	1	1.39
姿勢	2	3.08	기류	1	1.39
			기분	1	1.39
			기세	1	1.39
			느낌	1	1.39
			셈	1	1.39
合計	65	100.00	合計	72	100.00

<表6>より、日本語の新聞には「予定」から「姿勢」まで計6種類の名詞が、韓国語の新聞には「예정」から「셈」までの計10種類の名詞が使用されている。頻出名詞に注目すると、日本語は「予定」>「見通し」>「構え」=「方針」の4語が、韓国語は「예정」>「계획」>「전망」>「방침」の4語が上位群を占めている。

以上、新聞を対象とした調査結果を簡単に見てきた。次節ではこれまでの結果を踏まえて、具体例に基づいて分析・考察を行う。

4. 分析と考察

ここでは以下の3点について論点を絞って考えてみたい。

- (I) 小説における文末名詞文の(非)対応関係
- (II) 「主観」類に生じた名詞の種類と頻度の比較
- (III) 日本語教育分野への示唆

まず、日韓の小説における文末名詞文の頻度と(非)対応関係についてより詳しく見てみたい。<表2>と<表3>に再度注目すると、小説ではわずかな差ではあるが、韓国語における文末名詞文の頻度が高く表れた。また、韓国原作の小説において文末名詞文が使用されていたにもかかわらず、日本語訳には(14)「憂鬱だった」という形容詞文、(15)「疲れてしまった」という動詞文など、文末名詞文以外の表現が用いられている場合が多かった。これは何を示唆しているのだろうか。

- (14) 삼 개월 남짓 사귀던 애인은 친구에게 빼앗겼고, 짝 없는 외기러기마냥 혼자 남겨진 것이 너무 울적한 기분이었다.

「3か月あまり付き合った恋人は友人に奪われ、相手のいない雁のようにひとり置き去りにされたのが、あまりにも憂鬱だった。」 (『개인의 취향』)

- (15)=(13)の再掲

일을 하는 것도 아니고 일을 배우기 위한 강의를 듣는 데도 시터를 따로 구해야 한다는 사실에 벌써 지치는 기분이었다.

「まだ仕事になってもいないのに、仕事につくための授業を受けるにもベビーシッターが必要だという事実にもう疲れてしまった。」 (『82년생 김지영』)

新屋(2014)は、日本語には文末名詞文を含め、(16)のような日本語の初級教科書に初めて導入される基本的な名詞文や、(17)の「動詞性を捨象した名詞文」、(18)(19)の「主述関係を含む性状規定文」(同:355)⁷⁾などがあることから、「命題を統括する述部において名詞が多様に用いられるという点で名詞指向的な言語である」(同:16)と指摘している。

(16) 私は田中です。

(17) あしたから1週間出張だ。(新屋2014:354-355)

(18) 今日はいい天気だ。

(19) あの人は明るい性格だ。(井上2010:65)

また、日韓対比を行った一連の研究(生越2002、金恩愛2003、井上2010、金珍娥2019など)において、韓国語に比べて日本語の名詞(述語文)選好性の強さが指摘されている。しかし、既存の研究では主に(17)~(19)を研究対象とした記述に偏っているものが多く、本研究で扱ってきた文末名詞文が主眼に置かれることはなかった。

一方、井上(2010:64-65)は、(18)(19)は韓国語では成立しにくい⁸⁾が、文末名詞文⁸⁾は自然に成立すると指摘している。本研究の調査結果においても韓国語の文末名詞文の使用頻度は決して日本語に劣らず、むしろ、韓国原作の小説において文末名詞文が用いられている箇所では日本語訳本では文末名詞文以外の表現(形容詞文、動詞文)が多用されていた。

さらに興味深いことに、近年(20)(21)の「~각이다(角だ)」⁹⁾という、既存の韓国語には見られなかった新規的な文末名詞文も登場しており、今後さらにその使用が広まる潜在性は十分あるように思われる。

(20) 오늘 늦게 자고 내일 일찍 일어나야 할 각이다.

7) 井上(2010)は「いい天気だ」構文と呼んでいる。

8) 原文では「体言縮め文」という用語が用いられている。

9) (20) <https://blog.naver.com/rloxogude1/222051684695> (検索日: 2020.09.14.)

(21) <https://cafe.naver.com/com2usbbaseball2015/1117878> (検索日: 2020.09.14.)

(21) 박병호 살아날 각이다.

以上を踏まえると、日韓ともに多種多様な名詞述語文(名詞的表現)が存在するが、研究対象や着眼点によっては、「韓国語よりも日本語のほうが名詞指向性が高い」と、一概には言えないかもしれない。今回は限られた文末名詞文を対象としているため、この点については今後さらに多くの用例を集めて検証する必要がある。

次に、「主観」類に生じた文末名詞の種類と頻度に着目して、小説と新聞というジャンル間、日韓両言語間における異同について対比を行う。

まず、<表4>(3.1節)と<表6>(3.2節)に見られる上位3~4位までの頻出名詞に注目すると、「感じ/느낌」「予定/예정」「方針/방침」など、日韓両言語間で1対1で対応する(逐語訳が可能な)名詞が多数含まれている。一方、小説と新聞を比較すると、前者は「意志」を表す名詞(例:「気」「つもり」「생각」)と、「感情」を述べる名詞(例:「感じ」「気持ち」「기분」「느낌」)が、それぞれ半分ずつを占めている。これに対して、後者は「意志」類の名詞(例:「予定」「見通し」「예정」「계획」)がほとんどであり、「感情」類の名詞は非常に少ない¹⁰⁾。

また、同じ「意志」類であっても上位群の名詞の分布を観察すると、日韓ともに重複する語がほとんど見られないことから、ジャンル別に頻用される名詞の種類に、一定の偏向性が存在するように思われる。

この点を踏まえて最後に、とりわけ「意志」を表す文末名詞文について日本語教育の観点から考えてみたい。澤田(2014:63-64)は、日本語教育でコロケーションとして取り入れている文末名詞は「~つもりだ」「~予定だ」に限られるが、使用頻度の高さから考えて初級で取り上げる妥当性のある語であると述べた。

この指摘を受けて筆者の手元にある韓国国内で製作、使用されている日本語の初級教材(6種類、合計16冊)¹¹⁾を対象に、どの段階で「~つもりだ」を教授しているかについて調べてみた。その結果、ほとんどの教材において「~つもりだ」のみ、「~할 생각/작정이다」という韓国語訳で導入されていた。また、導入時期は動詞の意志形と同課に取り上げられており、以下のように意志形と「つもり」との相違について解説がなされている。

10) <表6>において「感情」類の名詞「기분」「느낌」がそれぞれ1例ずつ生起しているが、これは例えば、「반도체 업계 관계자는 “일본이 칼집에서 칼을 빼려다 다시 잠시 멈추는 동작을 취한 느낌”이라고 했다。」のように取材を受ける人の発話を引用する例であった。

11) 分析に用いた教科書の詳細は稿末にまとめて提示する。

생각이나 작정을 나타내며, (中略) 의지형 (~う, よう) 은 구체적인 계획이 없어도 사용할 수 있으나, 「つもり」는 구체적인 계획이나 장래에 대한 생각을 말할 때 사용한다. (『3STEP日本語3』 다락원, p. 25)

一方、「つもりだ」と「予定だ」の両方を取り上げ、両者の相違についてまで言及している教材は以下が唯一であった。

「~つもり」는 원래 ‘생각, 작정, 의도’란 의미인데, 말하는 사람의 의지를 나타내는 표현입니다. 주로 1인칭에 많이 사용되는 말이죠. (中略) 「予定」는 우리말의 ‘예정’이란 의미로, 「~つもりです」는 확정되지 않은 예정을 말하는데 쓰이는데 비해서 「~予定です」는 이미 확정된 예정을 말할 때 쓰입니다. (『스트라익 일본어 BASIC-2』 pp. 32-33、一部改変)

今回の調査結果において「予定だ」に対応する韓国語の「예정이다」も、生起頻度が高く表れたこと、「予定」も「つもり」と同様に日本語能力試験旧出題基準の3級の語彙である¹²⁾ことを踏まえると、両形式をより積極的に初級の段階で提示しても有効であると考える。

さらに、「どのような日本語を教えるべきかは学習者の運用場面、学習者の意識、ニーズに左右される」(新屋2014:355)と考えるが、中級の段階において「意志」語群の文末名詞文を導入する際には、澤田(2014)にも指摘があるように、人称制限やジャンルによる差異、日韓語の名詞の対応関係についても視野に入れて指導することを提案する。

例えば、今回の調査で頻度が高く表れた(22)(23)「気」は「つもり」と違って1人称とは共起できないという制約がある。一方、(24)(25)「考え」と(26)(27)「方針」は人称制限はないものの、「つもり」と(23)の「気」とは違って発話主体が個人というよりは、「安倍政権」「韓国」「組織・団体の責任のもとで発話している」(澤田2014:71)場合が多く、カジュアルな話し言葉ではあまり用いられそうにない。

(22) {*私／彼}は、来年にも帰国する気だ。 (澤田2014:68、一部修正)

(23) 両親になんて言い訳する気? (『君の膀胱をたべたい』)

(24) 安倍政権は問題の悪化は韓国側に責任があるとの立場で、ホワイト国から

12) 日本語能力試験旧出題基準語彙の旧に関しては澤田(2014:59~60)を参照した。

- 韓国を外す閣議決定を予定通り8月2日に行う考えだ。(2019/8/1記事)
- (25) 一方の韓国は、国際世論を巻き込むことで、日本側を撤回に追い込みたい
考えだ。(2019/7/13記事)
- (26) 韓国が応じないことを踏まえ、日本政府は19日、今後の対応を明らかにする
方針だ。(2019/7/19記事)
- (27) 今年の破棄通告期限の24日を前に、エスパー氏は韓国側に冷静な対応を
求める方針だ。(2019/8/9記事)

最後に、日韓語の対応関係という観点から(28)(29)の「見通し」と、(30)(31)の「 전망」について触れたい。

- (28) 21日間の準備期間を経た8月下旬には外れる見通した。(2019/7/25記事)
- (29) 今回の閣僚会合でも、日韓による二国間交渉の場は設けられない見通した。
(2019/8/2記事)
- (30) 통관 기간이 2~4주가량으로 길어질 전망이다。(2019/8/9記事)
- (31) 일본의 경제 회복 후 양국 간 첫 만남이지만 과장급 협의인 데다 양측이
침예하게 맞서고 있어서 구체적 성과 도출은 어려울 전망이다。
(2019/7/12記事)

この2語は本研究の新聞の調査結果において高頻出の語彙である。「見通し」と「전망」はそれぞれ、和語、漢字語という語種の違いはあるものの、両者は意味的に等価である。また、「전망」は日本語の「展望」に対応するため、「전망이다」を「展望だ」のように逐語訳が可能なはずである。しかし、日本語では「～展望だ」が文末名詞文として用いられる例は見られない。したがって、(28)(29)の「見通した」を「展望だ」と置き換えることはできない。

ただし、(32)(33)の例から分かるように日本語で「展望」という名詞そのものが使われな
いわけではない。

- (32) 韓国だけでなく日本経済の足も引っ張りかねないうえ、日韓関係を正す確たる展望も
ない。(2019/7/26記事)
- (33) さらに、コロナ禍による打撃を克服する展望を見いだせていないのが現状だ。
(2020/8/30記事)

つまり、形態、意味的に類似する名詞であっても、日韓両言語間には文末名詞文として成立するものとしがないものがあるので注意を要する。

以上のように文末名詞文は、日本語と文法的に近似する韓国語を母語とする日本語学習者にとって、一見習得しやすいように見えるが、決して簡単な文法項目ではないことに改めて気づく。しかし、両言語が酷似しているゆえに看過されやすい点についても注意を払って指導していけば、学習者の正用につながると考える。

最後に文末名詞文は、「のだ」のような円滑な日本語のコミュニケーションの維持(近藤2006:68)に頻用される文末形式など比べると、決して生起頻度が高いと言えない(<表2>と<表5>参照)が、「特定のジャンルに偏って現れる語彙を適切に使用することは、学習者が何者として日本語社会で行動するのかという選択肢の幅につながる」(澤田2014:71)ものと考ええる。

5. おわりに

本研究では文末名詞文を題材に、日韓の小説と新聞の用例に基づいて対照分析を行った。特に「主観」を表す文末名詞文に生起した名詞の種類と出現頻度を調査し、ジャンル(小説と新聞)と言語間(日・韓)の異同に焦点を置いて考察を行った。さらにその結果を踏まえて、とりわけ「意志」語群の文末名詞文を日本語教育分野においてどのように提示、指導したらいいかについて教育的提言を行った。

今回は「主観」類に限定した日韓の対比を行ったが、今後は新屋(2014)に提示されている他の意味分類の文末名詞文にまで研究対象を拡大していき、日韓両言語における文末名詞文の全体像を明らかにしたい。

【参考文献】

- 남길임(2004) 「'르 예정이다' 류 구문 연구-말뭉치 용례의 통사 정보 분석을 중심으로-」
『한국어학』 22, pp.69-94.
안주호(1997) 『한국어 명사의 문법화 현상 연구』 한국문화사.
정희정(2000) 『한국어 명사 연구』 한국문화사.
井島正博(2010) 「名詞述語文をつくる名詞節」 『日本語学』 29-11、明示書院、pp.48-57.

- 井上優(2010)「体言締め文と「いい天気だ」構文」『日本語学』29-11、明示書院、pp.58-67.
- 生越直樹(2002)「日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方「きれいな花!」タイプを中心に」『シリーズ言語科学4』生越直樹編、東京大学出版会、pp.75-98.
- 川島拓馬(2016)「構造と分類から見た「文末名詞文」の位置づけ」『筑波日本語学研究』12、筑波大学人文社会科学研究所日本語学研究室、pp.53-78.
- 金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbally-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯、朝鮮学会、pp.1-83.
- 金廷珉(2014)「文末名詞文に関する日韓対照研究－「模様だ」と「모양이다」を中心に－」『日本語学報』41、韓国日本語学会、pp.17-32. (DOI: <http://dx.doi.org/10.14817/jlak.2014.41.17>)
- 金廷珉・秋葉多佳子(2019)「日韓語の文末名詞文の使用実態に関する調査－日韓の小説データに基づいて－」『韓国日本言語文化学会2019年度秋季国際学術大会発表要旨集』韓国日本言語文化学会、pp.117-123.
- 金珍娥(2019)「日本語と韓国語の談話における<述語文>の様相－<話されたことば>の文末を解析する－」『朝鮮学報』第249・250輯、朝鮮学会、pp.85-138.
- 近藤安月子(2006)「「のだ」が指標する話し手の主観性」『月刊言語』35-5、大修館書店、pp.68-73.
- 澤田浩子(2014)「知覚・思考・判断・意志を表す「文末名詞文」の使用実態－コロケーション文型へ－」『日本語/日本語教育研究』5、ココ出版、pp.57-73.
- 新屋映子(1989)「「文末名詞」について」『国語学』159、国語学会、pp.1-14.
- _____ (2014)「第6章 文末名詞」『日本語の名詞指向性の研究』ひつじ書房、pp.85-105、354-355.
- 角田太作(1996)「体言締め文」『日本語文法の諸問題』ひつじ書房、pp.139-161.
- _____ (2011)「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』1、国立国語研究所、pp.53-75.
- 丹羽哲也(2017)「「文末名詞文」における題述関係と形式化」『文学史研究』57、大阪市立大学国語国文学研究室文学史研究会、pp.83-101. (DOI: <http://dx.doi.org/10.24544/ocu.20171225-001>)
- 野田時寛(2006)「複文研究メモ(7)－文末名詞文をめぐる－」『人文研紀要』56、中央大学人文科学研究所、pp.274-299.
- 三宅知宏(2005)「現代日本語における文法化－内容語と機能語の連続性をめぐって－」『日本語の研究』第1巻3号、日本語学会、pp.61-75.
- 文彰鶴(2014)「「モヨウダ」と「모양이다」の日韓対照研究」『日本言語文化』28、韓国日本言語文化学会、pp.235-254. (DOI: <http://dx.doi.org/10.17314/jjlc.2014..28.012>)
- Tsunoda, Tasaku. 2020. Modern Standard Japanese. In Tasaku Tsunoda (ed.), *Mermaid construction: A compound-predicate construction with biclausal appearance*. Berlin & Boston: De Gruyter Mouton. pp.65-124.

【資料1. 小説の書誌情報】

タイトル	著(訳)者	年度	出版社
『아홉살 인생』	위기철	2002	청년사
『9歳の人生』	清水由紀子	2004	河出書房新社
『개인의 취향』	이세진	2007	도서출판 청어람
『個人の趣向』	小西明子ほか	2011	インタラクティブメディアミックス

『내 이름은 김삼순』	지수현	2012	테라스북
『私の名前はキム・サムスン』	尹京蘭	2012	角川春樹事務所
『82년생 김지영』	조남주	2016	민음사
『82年生まれ、キム・ジョン』	齋藤真理子	2018	筑摩書房
『マドンナ』	奥田英朗	2005	講談社
『마돈나』	정숙경	2015	북스토리
『飲めば都』	北村薫	2011	新潮文庫
『술이 있으면 어디든 좋아』	오유리	2016	작가정신
『羊と鋼の森』	宮下奈都	2015	文芸春秋
『양과 철의 숲』	이소담	2016	예담
『君の臍臓をたべたい』	住野よる	2017	双葉社
『너의 취장을 먹고 싶어』	양윤옥	2017	소미미디어

【資料2. 初級教科書(6種類、計16冊)の書誌情報】

タイトル	著者	年度	出版社
① 단계별로 쉽게 익히는 3STEP 日本語 1~3	한선희 他	2009	다락원
② 뉴라인 일본어 1~2	최광준 他	2010	다락원
③ 이지 스타트 일본어 입문 1~2	신일본어교육연구회	2010	사람 in
④ 스트라익 일본어 BASIC 1~2	김희성 他	2011	시사일본어사
⑤ Open 일본어 1~2	정의상 他	2011	일본어뱅크
⑥ New다이나믹 일본어 Step1~Step5	오현정 他	2012	다락원

논문 투고 일자 : 2020. 09. 28.
논문 심사 일자 : 2020. 10. 26.
계재 확정 일자 : 2020. 10. 28.

 <要旨>

「主観」を表す文末名詞文の日韓対照研究

—小説と新聞の用例に基づいて—

金廷珉

本研究では日韓語の「主観」を表す文末名詞文を中心に、小説と新聞の用例に基づいて出現頻度と生じた名詞の種類について対照言語学の観点から分析を行った。さらに、その結果を踏まえて、とりわけ「意志」を表す文末名詞文について日本語教育分野における教育的提言を行った。本研究で明らかになった結果は以下の通りである。

- (I) 「主観」を表す文末名詞文の頻度は小説においては韓国語のほうが高いのに対して、新聞では日本語のほうが高い。
- (II) 頻出名詞（上位3～4語）は以下の通りである。
 日本語の小説：「気」「感じ」「気持ち」「つもり」
 韓国語の小説：「기분」「느낌」「생각」
 日本語の新聞：「予定」「見通し」「構え」「方針」
 韓国語の新聞：「예정」「계획」「전망」「방침」
- (III) 「意志」を表す文末名詞文を教授する際に、人称制限やジャンルによる名詞の偏向性、日韓の対応関係についても注意を払って指導する必要がある。

A contrastive study on Japanese and Korean noun-concluding sentences encoding subjective meanings: Based on data of novels and newspapers

Kim, Jung-Min

This study aimed to analyze the use of noun-concluding sentences that encode subjective meanings (henceforth, NCSs) in Japanese and Korean from the perspective of contrastive linguistics. Based on data from Japanese and Korean novels and newspapers, this study investigated the frequency distribution of nouns in NCSs and suggested pedagogical considerations for effective teaching NCSs that indicate intention.

- (I) The frequency of Korean NCSs attested in novels is slightly higher than that of Japanese NCSs, while the opposite result was observed in newspapers.
- (II) Nouns that show high frequency are as follows (3~4 nouns in the order of frequency).
 Japanese novels: *ki* 'thought', *kanji* 'feeling', *kimochi* 'mind', *tsumori* 'intention'
 Korean novels: *kípwun* 'feeling', *nukkim* 'feeling', *sayngkak* 'thought'
 Japanese Newspaper: *yotee* 'schedule', *mitoosi* 'expectation', *kamae* 'attitude', *hoosin* 'policy'
 Korean Newspaper: *yejceong* 'schedule', *kyeyhoyk* 'plan', *cemnang* 'expectation', *paengchim* 'policy'
- (III) The NCSs indicating intention should be taught in consideration of restriction on personal pronouns, distributional difference of nouns between genres, and the corresponding relationship between two languages.